

## 取組主体：有限会社 高橋畜産

### 基礎情報

【所在市町村】せたな町

【経営内容】養豚業

【経営形態】一貫経営（繁殖豚を飼育し子豚を取り上げ、肥育して出荷販売）

【従業員】家族以外に4名（うち障がい者：正規雇用2名、パート雇用1名）

### 1 取組の経緯等

- 高橋畜産は、昭和56（1981）年に養豚を開始し、平成3（1991）年に経営規模を拡大したことに伴い労働力不足を補うためパートを探していた。
- かねてより「障がい者が動物や植物とふれあうことは重要である」と考えていたことや、近隣にある福祉施設の働きかけがあったことから、知的障がい者を実習生の形で受入。
- 障がいの程度と労働内容から通年雇用が可能と判断し平成10（1998）年より障がい者個人と労働契約を結び正規雇用へ切り替える。現在、3名の知的障がい者が従事しており、うち2名（40代と60代）は正規雇用、1名（60代）はパート雇用。

### 2 取組内容

- 通年雇用とし、1日7時間（8時30分～16時45分。昼食は1時間、午後15分の休憩）労働で正規雇用者は4週6休制、パート雇用者は週3休制としているが、通院など障がい者個人の状態に留意し柔軟に対応している。
- 高橋氏は、障がい者支援組織である「職親会」（障がい者を雇用している事業者の会）に所属（現在副会長）しており、福祉施設と連携し自立就労生を励ます活動を行っている。
- 障害者は、福祉施設の車の送迎により豚舎まで通勤するとともに、昼食（弁当）のサポートも受けている。
- 作業内容は、豚舎内の清掃と洗浄（空になった豚舎の洗浄・消毒）を主業務とし、高橋氏の指示のもと肥育豚の移動（出荷時輸送車への積み込み）などを行っている。
- なお、当農場で働いている障がい者は、仕事に対して「雑だが早い」「ゆっくりだけど丁寧」「数字に強い」など、それぞれの個性があることから、それに合った作業に心がけているが、全員総じて「まじめ」な印象が強い。



▲豚舎内の清掃作業の様子

### 3 取組のポイント等

- 繁殖用雌豚は300kg以上になるので、清掃作業中の接触事故防止のため二重ゲート

(母豚の急な後退防止)へ改修(平成23(2011)年度障害者自立支援対策事業活用)するなど、障がい者の作業に配慮した環境を整備している。

- また、障がい者が仕事で混乱しないように、作業は「急がせない」、指示は「ひとつずつ」など個々の自主性に配慮している。
- 3名の障がい者は、全て15年以上(中には24年以上の者も)の長期雇用であることから、業務内容を熟知しており安心して作業をまかせることができる。
- 高橋畜産では、休憩時間に畑の農産物(スイカなど)を一緒に食べながら積極的に会話をするなどコミュニケーションを大切にしている。また、年2回従業員との交流の場として花見と忘年会を実施しており、非常に楽しみにしていることから勤労意欲にもつながっている。

#### 4 障害者就労に関する展望、課題

- 近い将来養豚事業の拡大を目指していることから、1~2名の障がい者従業員の増員を福祉施設に依頼しているが見つからないのが現状。
- 日頃から「障がい者雇用の状況」をよく聞かれ地域での評価は良いと思うが、まだまだ障がい者であっても「適した仕事がある」ことを知らない事業者や「仕事は無理」と決めつけている風潮もある。
- 課題は、過去に1度休むと理由を付けて休みがちになったこともあることから、楽しく興味を持てる環境になるよう作業内容などに工夫していきたい。

(この事例の問い合わせ先)

有限会社 高橋畜産

電話 0137-84-6325

<http://www17.plala.or.jp/takahashi-chi/>

調査時期 平成27年9月